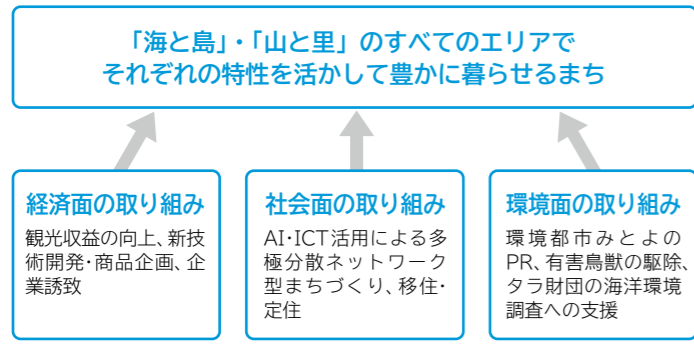




2030年のみとよのあるべき姿



三豊市が「SDGs未来都市」に選定

国はSDGsの達成に向けて地方自治体を支援するため、平成30年度から特に優れた提案をした都市を「SDGs未来都市」に選定しており、令和2年度は、全国で34自治体を選ばれています。三豊市も、令和2年度「SDGs未来都市」に選ばれ、県内の自治体からは初めての選出となりました。

PICK UP! みとよのSDGs

—せとうちスマートアイランド構想—

島民の皆さんの協力により運行しています

▲グリーン・スロー・モビリティ

MaaS※の推進

※MaaS……多様な交通手段を最適に組み合わせ、一つのサービスとしてとらえること

国土交通省の「令和2年度スマートアイランド推進実証調査」の認定を受け、「移動」・「医療」・「物流」という観点から、持続可能な島内インフラを確立するための実証を行っています。

持続可能な島内交通の確立をめざした実証事業

少子高齢化や人口減少が進み、島内における公共交通手段がない粟島で、高齢者や自家用車を所有しない島民などの移動困難者を取り残さないため、低速で安全で、環境にも優しい「グリーン・スロー・モビリティ※」を活用した島内移動の実証事業を行っています。

※グリーン・スロー・モビリティ……時速20km未満で公道を走行する4人乗り以上の電動車両

遠隔医療・無人ドローン配送実現をめざした実証実験

医療と物流をつなげ、島で安心して住み続けられる環境を作るため、2月5日、詫間港ゴマヅリ地区・粟島港間で無人ドローンを活用して医療機器や医薬品などを輸送する実証実験を行いました。実証実験は、市を含めた13の企業や団体が連携して行い、医師がオンライン診療すると想定して心電計などを輸送しました。

▲2種類のドローンを活用しました

▶問い合わせ 交通政策課 ☎73-3055

海洋環境学習

昨年度、市は世界中の海を調査する一般社団法人 TARA JAPAN と海洋環境の啓発・教育に関する連携協定を締結しました。その取り組みの一環として、粟島海洋記念館では科学探査船タラ号によって調査された、地球温暖化やマイクロプラスチックがもたらす海への影響などを学び、地球環境について考えられる資料を展示しています。

海洋環境を学ぶオンラインツアーを開催します！

日時 3月21日(日)午後1時30分～3時(予定)
定員 20人程度
内容 粟島とのかかわりが深い、芸術家の日比野彦彦さんをナビゲーターにお迎えし、TARA JAPANの活動を通して、海の大切さや海洋環境について学ぶほか、粟島の魅力を紹介するオンラインツアーを開催します。

▶詳細は市ホームページをご覧ください
▶問い合わせ 産業政策課 ☎73-3012



特集

私たちの近くにSDGs

エスディージーズ

—未来のためにできることを考えてみませんか?—

飢餓や教育格差、環境問題。これらさまざまな課題を解決し、これから先も地球で豊かに生活し続けている社会をつくるため、2015年9月の国連サミットでSDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標) が全会一致で採択されました。一人ひとりが力を合わせて取り組むべきSDGs。私たちに、今できることは何なのか、考えてみませんか?

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs 17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

世界の共通目標 SDGs

「持続可能な」社会へ

SDGsは、社会面、経済面、環境面で世界が直面する課題を解決するための17の目標と、それを達成するためのより詳細な169のターゲットで構成された2030年までに達成すべき目標とされています。

SDGsがめざす「持続可能な」社会とは、地球環境を守りながら、この先も暮らしや経済が豊かであり続ける社会のことをいいます。

また、SDGsは地球に暮らすすべての人のための目標として「誰一人取り残さない」ことを理念としており、今、世界中で取り組まれています。これは決して、三豊市に住む私たちにとっても無関係ではありません。SDGs達成のためには、国、地方自治体企業だけではなく、私たち一人ひとりの意識の変化と行動が求められています。

PICK UP! 学校や企業のSDGsの取り組みを紹介します



SDGsを学び、考え、伝える

四国学院大学香川西高等学校
特進コース2・3年生の皆さん



▲学び、実践したことを発表し合いました



▼生徒たちの手作りグッズ

四国学院大学香川西高等学校特進コース2・3年生の皆さんは、1年間のSDGsについて学びました。山・川の汚染や寮の食事の食べ残しなど、身近な課題を見つけ、それを解決していくにSDGsを達成するかをグループに分かれて調べ、実践してきました。学習の集大成として行われた各グループの発表では、ペットボトルでフェイスシールドを作ったことや、木の皮でストローを作ったこと、寮で出た残飯で堆肥作りをしたこと、また子ども向けにSDGsの説明動画を作成したことなどのテーマがありました。生徒たちは、SDGsは地球規模の課題というだけでなく、身近に自分たちが取り組めることはたくさんあるということを学びました。



地域に根ざし、社会・環境問題に取り組む

みとよSDGs推進パートナー企業 株式会社 中国銀行

地域に根ざし、地元経済を支える中国銀行。「ちゅうぎんSDGs宣言」を掲げ、地域の社会・環境問題に取り組んでいます。地域密着型のクラウドファンディングの設立をはじめ、顧客の手続きや業務のペーパーレス化、環境への負荷が少ない物品の購入、行内研修の実施など活動は多岐に渡ります。また、昨年は市と連携協定を締結し、AI（人工知能）・IoT*などの先端技術を活用した産業振興や地域課題の解決に取り組んでいます。



▶1月に開催された行員対象の「地方創生SDGs研修会」

大漁旗で地域の魅力を表現

香川高等専門学校詫間キャンパス情報工学科
4年 香川 華澄さん



▲香川さんが三豊市をイメージしてデザインした大漁旗

香川さんのコメント

私の学校は、瀬戸内海に面した庄内半島にあり、そのすぐ近くの紫雲出山山頂に咲き誇る桜は、まるで海の上に咲いているかのような絶景スポットです。また、教室から見える詫間の海にはたくさんのお魚がいます。そんな私のイメージする三豊市を旗に込めました。

東京大学の生産技術研究所が主催する「大漁旗プロジェクト」に香川高等専門学校詫間キャンパス情報工学科4年の香川華澄さんが参加しました。これは、SDGsの実現に向けて、地域が輝きを増すための願いや希望、「アフターコロナ」を見据えたまちづくりの展望などを描いた旗で日本各地をつなげる取り組みです。全国から50を超える自治体に参加しており、制作された大漁旗は、今後、東京大学内の安田講堂で展示される予定です。



みとよSDGs推進パートナー企業

インタビュー!

「2030 SDGs」公認ファシリテーターの資格を取得

SDGsとは?から始まる「気づき」と「可能性」

株式会社菅組 総務部 マーケティング 西原 澄子さん

株式会社菅組の西原澄子さんは、SDGsを達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するカードゲーム「2030 SDGs」の公認ファシリテーターです。これは、一般社団法人イマコロボが開発したゲームです。数月前までSDGsという言葉を意識していなかった西原さん。「前職で、地域の方と里山づくりや海岸清掃活動に取り組んでいました。また自宅近くで海ごみの実態を目の当たりにし、個人の意識や社会のシステム自体の課題を解決しないと変わらないと感じるようになりました。そして私自身、この地域のあり方や自分の行動を考えるようになり、自分の暮らしこそSDGsはあると気付いて、初めて「エスディージーズ」と読めるようになりました(笑)」

一方菅組では、国連でSDGsが採択された2015年よりも以前から環境保全活動に取り組んでいました。太陽熱や薪ストーブ、自然素材を取り入れること、地元の木を使うことで森を守り、生物多様性を守ること。他にも、新築の住まい手対象の『大黒柱伐採ツアー』は、林業の一部を体験できるツアーで、地域の木の良さに触れながら森の中で生態系について勉強ができました。2009年には創業100周年記念事業として地域に昔からある植物を植える「鎮守の森プロジェクト」を開始。2017年には「菅組環境方針」を打ち立て、SDGsを基盤とした事業計画を策定しました。そんな中、上司に勧められて参加し



▲西原さんの上司である武内総務部長。「このゲームは、なぜSDGsが必要なのか、どんな変化や可能性があるのかを体験し理解できるゲームです」

たSDGsのカードゲームが面白く、すぐに「社内や地域でもやりたい!」と思ったという西原さん。会社のバックアップを得て養成講座を受講し、昨年12月に公認ファシリテーターの資格を取得しました。「カードゲーム『2030 SDGs』って何がそんなに面白かったの?とよく聞かれますが、チャンスがあればまず体験してみたいです。参加者としても十分に楽しめますが、ファシリテーターとしての学びはさらに深く、多くの発見と気づきを得ています。今では自身の指針にもなり、出会えて本当に良かったと思います」

まずは社内に、そして将来は地域の人や子どもたちにも体験してほしいという西原さん。「『SDGsの正解』はありません。『なぜ今SDGsなのか?何をすべきなのか?』という『問い』です。それを問うた先に見える『気づき』を自身で探求し、そこに広がる『可能性』を信じる。ファシリテーターはその橋渡しをする役割だと思っています。SDGsって世界のこと……と考えずに、まずは自分事として、既存の枠にとらわれずに、自分の思いを実現することから始めてみてほしいと思います」

※ファシリテーター……会議などが円滑に進むように中立的な立場から働きかける人のこと



▲まんのう町の專業林業家の林を借りて行われる「大黒柱伐採ツアー」

PICK UP! 菅組の取り組み



▲社員向けにカードゲームを行う西原さん



▲地域に昔からある植物を復活させる活動「鎮守の森プロジェクト」



▲大黒柱の間伐材で作ったSDGsバッジ

おめでとうございます

日本一になった 皆さんを紹介します

市にゆかりのある人で、分野を問わず世界一や日本一になるなど、輝かしい活躍をした人に三豊市特別表彰をお贈りしています。表彰は平成18年から始まり、今回で15回目を迎えました。今年度受賞された皆さんを紹介します（順不同）。

▶ 問い合わせ 秘書課 ☎ 73-3001

▼ 2月5日に行われた三豊市特別表彰 表彰式



日本一名誉賞



ももた けんと
桃田 賢斗さん

第74回全日本総合バドミントン選手権大会
男子シングルスで優勝

桃田賢斗さんからの受賞コメント

僕が今こうしてバドミントンができていることは、三豊市の皆さんからの応援やファンの皆さん、周りの方々のサポートのおかげだと感じています。三豊市の子どもたちへ夢を与えられる存在になるように、これからも頑張っていきます。

日本一名誉賞



たるい ゆうじ
垂井 祐志さん

全国高等学校
陸上競技大会2020
高校男子ハンマー投で
優勝

▶ 垂井さんが記録した
68m25は日本高校歴
代2位にあたります



日本一名誉賞



しらかわ たけし
白川 猛士さん


第20回ジャンクラシック
ベンチプレス選手権大会
男子マスターズ4
59kg級で優勝

▶ 120.0kgを記録し、見事
大会9連覇を達成しました






7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに




13 気候変動に
具体的な対策を




- 使っていない電気やテレビを
小まめに消す
- エアコンの温度を冬は低め、
夏は高めに設定する
- 太陽光発電を導入する

8 働きがいも
経済成長も




- 残業をしない、
休暇をきちんと取る
- 地元の店で地元産の
ものを買う

12 つくも責任
つから責任




14 海の豊かさを
守ろう




- マイバッグを持参する
- できるだけ簡易包装の
品物を買う
- 海や川に行ったらごみを
持ち帰る

15 陸の豊かさも
守ろう



- 請求書や明細書は
電子のものに切り替える
- 絶滅の危機に瀕する生物に
ついて調べる

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



- みんなで取り組む
- 周りの人にSDGsを広める

SDGsは一見、日常生活とはかけ離れているように思えるかもしれませんが、しかし、私たちの生活のすぐ近くにSDGsへつながる取り組みはたくさんあります。


一人ひとりの取り組みが大きな変化につながります。身の回りから始めてみませんか。

私たちが 簡単にできる SDGs活動


TRY



1 貧困をなくそう




2 飢餓をゼロに




- 寄付をする
- 食品ロスを減らすため
スーパーで賞味期限の
短い食材から買う
- 食べきれない食品は早めに
冷凍する

3 すべての人に
健康と福祉を




13 気候変動に
具体的な対策を



- 徒歩や自転車で通勤、
通学する

6 安全な水とトイレ
を世界中に



- 水道の蛇口を小まめに止める
- 風呂の水を散水や洗濯に
再利用する

みとよSDGs推進パートナーを募集しています！

SDGsの推進に取り組む企業や団体を「みとよSDGs推進パートナー」として応援します。



登録すると……

- 「みとよSDGs推進パートナー登録証」を交付します
- 市ホームページなどで登録企業などのSDGsに関する取り組み内容を紹介します
- 市ホームページと登録企業などの活動紹介ページを相互リンクします



要件

- 本制度の趣旨に賛同する企業および団体であること
- SDGsの推進につながる取り組みをしていること
- 地域課題の解決に向けた取り組みや市民などへの普及啓発など、SDGsのさらなる推進に取り組む意欲があること
- めざしているSDGsのゴールが明確であること

登録方法

- 「みとよSDGs推進パートナー登録申請書」に必要事項を記入し、メールで地域戦略課 (chiiki@city.mitoyo.lg.jp) へ提出してください。※募集要綱、登録申請書は市ホームページでご確認ください。

▶ 申し込み・問い合わせ 地域戦略課 ☎ 73-3011

登録証
イメージ▶